

### 第3回 板橋区立中学校地域移行検討会議 議事要旨

開会	
会長	<p>ただいまより第3回板橋区立中学校活動地域移行検討会議を開会する。始めるに当たり、8月の末に、日本体育スポーツ健康学会という比較的規模の大きな学会に参加した。そこでシンポジウムなどで、地域移行については、今年大きく話題に取り上げられており、やはり全国的にもといますか、学会のほうでも、この話題かなり力を入れて考えているなというふう感じた。</p> <p>9月上旬に、秋田県に地域移行の講演の関係で行ってきたが、あまりまだ進んでおらず、これから検討委員会が立ち上がることを検討しているという状況であった。やはり板橋区はかなり進んでいる、受け身という形ではなく攻めの姿勢で議論できていると感じた。本日もよろしく願う。</p> <p>それでは、「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030（素案）」について、教育総務課長から、説明願う。</p>
議題（1）「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」の素案について 説明者：事務局（教育総務課長）	
事務局	<p>手元に素案という形で示させていただいた用紙をご覧いただきたい。はじめに、目次について説明する。大きく序章、1章、2章という形で、ビジョン2030を構成している。それ以外にビジョンの実施計画2025、資料編を1冊にして作成するという形をとっている。</p> <p>序章は、ビジョン策定の背景や中学校部活動の現状、意識調査結果、学校部活動の課題で構成している。</p> <p>第1章では骨子案から示しているめざす将来像、第一次目標、今回新たに推進方針というものを書き加えた。今までは重点戦略を示して、三つの柱で進むという形で書いてあったが、それをどのぐらいのスピード感、またどのような構成で進んでいくかという視点で、推進方針というものを定めている。</p> <p>第2章では、ビジョンに基づいて部活動改革に取り組むにあたっての主な課題や重点戦略ごとの課題一覧を示している。</p> <p>次に、実施計画2025ではそれに基づいて、具体的な計画を現時点で可能な限り示していく。</p> <p>最後に、資料については、こちらにあるようなものを収集していく。</p> <p>それでは、内容に入っていく。序章の2・3ページでは前提として話してきた国の提言や検討経緯を改めて示している。</p> <p>4ページも骨子案で示した、部活動改革実施の目的ということで3つ、生徒の成長機会の確保、教育の質の向上、生涯スポーツ社会・生涯学習社</p>

会の進展ということで改めて位置付けている。

5 ページの板橋区立中学校部活動の現状は最新のデータが取れ次第、情報を記載する。教員・指導者の状況も同じある。

6 ページはアンケートの調査結果を示す。現在、生徒・保護者にアンケート調査を実施中で、その情報を記載する。

7 ページは現行の学校部活動における課題を示した。大きく分けて4つある。

#### (1) 持続可能性への懸念

##### ① 少子化による影響

生徒数がピークの昭和 60 年の 19,105 人から、9,343 人に半減しているという状況がある。一方、学校数は 24 校から 22 校とそう変わっていない。そうすると、何が起きるかという、1 校当たりの人数が大きく減るということもあるし、学校数がそう変わらないということは、部活動の数もそう変わらない。そうすると、子どもの数が半減しても顧問の負担等が変わらない。学校単位で部活動をやろうとするとこのような少子化の影響が出てくる。

##### ② 教員の長時間労働

ここは板橋区の教員の状況を伝えたく設けた。教員の標準的な勤務時間は 8 時 15 分から 16 時 45 分までである。その後、部活動の顧問があると平日は 18 時ぐらいまで部活動をやっている。ガイドラインに沿って活動したとしても土日どちらか 1 日は部活動。そうすると、顧問になった瞬間に平日は残業が確定してしまう。さらに、土日どちらか出勤というのが確定してしまう。部活動の顧問を担うとは、時間的にもそうなることをここで見える化している。

#### (2) 生徒の成長機会

##### ① 生徒のニーズと選択の自由

子どもたちのやりたい種目が多様化している。その中で、どこまで現行部活動がそのニーズにこたえられるかという、なかなか難しいところであるが、成長機会という点からいくと様々な種目を選べるということは大切である。

##### ② 「補欠」という制度

運動部をイメージしてもらおうとわかりやすいが、最上級学年が基本的にはレギュラー候補ということになると、2 年間、公式戦でプレーする機会がないところが成長機会という観点からすると閉ざされてしまうと思っている。さらに、トーナメント方式で試合をすると、どうしても 1 試合も落とせないという戦い方になるため、レギュラーと補欠という区分けにどうしてもなってしまう、最上級生になっても、公式戦に出る機会があるか、プレーする機会があるかという点でいうと、成長機会という点では限られてしまうという部分を課題として認識している。

### ③経験のない教員による指導

教員によっては自身が経験したことのない種目の顧問になることがある。生徒からするとうまくなることがすべてではないですが、その種目にチャレンジして、技術的にうまくなりたいと思ったとき、教えてもらえないという状況が、教員の心の負担になっていると考えている。その状況が課題の一つであると思っている。試合後に交流会が行われ、互いの健闘を讃えあって言葉をかけて親交を深める。勝利至上主義から勝ち負けを基礎ゲームとする健全な狭小主義という価値観に変えていく必要を掲げている。

#### (3) 活動の過熱化

##### ①活動の長時間化

活動時間の基準を示しているが、強いチームほど頑張ってしまう。過熱化は精神的なバーンアウト、慢性の疲労感、スポーツ外傷等のリスクの高まり、様々な意味で長い時間活動することには、課題がある。

##### ②けが

活動が過熱化したときに無理をすると、二度とそのスポーツができなくなるような大きなけがつながらないように気をつけなくてはならない。

##### ③勝利至上主義的な思考

勝ち負けにこだわるのが悪いとは言わないが、それが最上位の概念になるとおかしいことになる。スポーツは勝ち負けを競うゲームであって、勝ちそのものを目的として行うものではないという考え方もある。ラグビーの文化にアフターマッチファンクションという、試合後に交流会が行われ、互いの健闘を讃えあって、言葉をかけて親交を深めるというものがある。勝利至上主義から健全な競争主義へ価値観に変えていく必要もある。

##### ④不適切な指導

活動が過熱化したり、勝利至上主義的な思考に陥ってしまったり、指導者の感情コントロールが瞬間的にできなくなってしまったりした時などに不適切な指導というものが行われると思う。そういったことを防止する環境整備も重要なことで課題としている。

#### (4) 学校部活動と引退

学校部活動で避けて通れないものが引退で、部活に所属して引退する、また部活に所属して引退する、このようなことを中学、高校、大学、社会人と繰り返している。意思の強い人や続けられる人は、乗り越えていけるがフェードアウトしてしまう人もいる。自然と緩やかな形で生涯に渡ってプレーし続けられる体制という点では、社会教育分野でこのようなことが行われるときっとまた違う展開になるかと思う。

第1章のめざす将来像では意味やニュアンスは骨子案から変わっていないが、言葉を短くして同じような意味合いで再構成している。アウトカムイメージは変わっていない。15 ページには将来像がイメージできるような

絵を入れる予定である。

16 ページからの第一次目標（直近のマイルストーン）では土日における部活動の教育に頼らない指導体制の構築を掲げている。ただ解説が必要なので、わかりやすくなるように言葉を足したり、どのように、その1次目標をクリアするかということ聞かれたのでそのあたりをパターン例で補った。次に、一次目標に向けた取組時の課題としては、平日と土日で指導者が異なると指導方法が異なる場合が生徒が困惑する。平日の夕方に対応可能な外部指導者が少なく、土日のみ対応可能な外部指導者で指導体制を構築してしまうと、平日にも広げていくことが難しくなる。学校教育の一環である学校部活動について、教員である顧問と教員ではない外部指導者で考え方に相違が生じ、連携がスムーズにいかない場合があるといったことを記載した。

それから、戦略に対応する形で目標に寄与するパターンを書いた。パターンABCでは、いたばし地域クラブが学校に代わって地域クラブをつくる話なので、どのようなパターンでも教員に頼らない指導体制となり、寄与するというには変わらないと再確認した事例である。DEFは、地域連携として部活動の外部委託、要は部活動指導員を導入する場合は、土日に部活動指導員が見てくれれば寄与するし、土日に先生も一緒になって活動すると、寄与しないという例を書いている。Gは、地域の方が受け皿となる活動の場合でどのパターンであろうが、教員に頼らない指導体制となり、寄与していることになる。

推進方針では戦略の三つをどのように進めて地域移行していくのか、瞬時にイメージが湧かないため、そのあたりを書いた。

①は、明日から部活動をなくして、地域クラブをどんどんつくっていきますということではなく、しっかりと関係者、生徒、保護者の方、地域の方、様々な方としっかりと合意形成を図って一つ一つ前に進めていく。

②は、生徒が興味を持つあらゆる分野を対象に、多様なニーズに合った活動機会を充実させる方向性を打ち出している。

③は、スポーツの本来楽しいという状態をさらに強めるような、運営というものが大事というところで掲げている。

④は、複数の活動に同時に取り組める環境を整備することで、一つの活動だけに打ち込むということから、いろいろなことを経験できるという新しい価値観、環境をしっかりと確保していきたい。

⑤は、今まで教員が献身的に部活動を支えてくれたということもあり、一部保護者負担というものも取りざたされている。この新しい制度を作ろうとすると、様々な人が少しずつ関わりながら、やるということを理解いただくために掲げた方針である。

この5つの方針を掲げ、劇的に変わってしまうという不安を持つ方にはじっくりやっていくよということを示すし、活動の方針とかそういう部分

	<p>でどうだろうと思っている多様な方々には、そのような新しい価値観でしっかりと対応していきますよということを示している。</p> <p>これまでは、重点戦略1が地域移行の推進、2は地域連携の活用、3は地域と一体となった受皿の整備ということで掲げていた。板橋区の教育委員である長沼委員は当初から、地域移行という言葉が非常に地域への丸投げをイメージさせて、誤解を招きやすいということで、地域展開という言葉で発信されていた。国とか東京都のガイドライン、計画で使われている言葉ではないが、行政による地域クラブの推進と混ざらないように地域展開というふうに呼びたい。</p> <p>19ページの図で左側の学校教育の一環から、右側の社会教育分野に移行すること自体を地域移行と呼んでいる。その地域移行して地域クラブをつくるにあたって、行政が運営団体となって地域クラブを運営するというのが特徴的である。一方、それ以外の民間の部分を地域展開と呼び、地域移行には行政が運営するいたばし地域クラブと民間の地域クラブが展開する地域展開、二つのパターンがあると提示している。</p> <p>そして、最後の第2章が24ページから始まり、こちらでは実際に部活動改革に取り組むときの、課題ということで示してある。国の提言等にもあったが、指導者の資、指導者の量、活動場所、費用負担、保険への加入、大会等への参加、特別な支援を要する生徒への配慮、各団体との連携ということで、それを確認する形で示している。</p> <p>この他にも、板橋区独自で様々な課題があるかと思うので、ここはもう少しだけお時間をいただきながら、書き加えられるものがあれば、充実させていきたいと思っている。</p> <p>26ページは、今申し上げた8つの課題を一覧表にまとめたものを記載している。ここまでが推進ビジョンということになり、この後がそれを落とし込んで展開していく実施計画2025の部分となる。</p> <p>32ページに、コラムとしてSDGsコンセプトの具体策を記載している。学校部活動の課題にどのように答えるかということを示している。運営指針としては、進学した中学校に関わらず区内全域から参加することを可能とし、新しい価値観、コンセプトを具現化することをいたばし地域クラブで展開していくことで、学校部活動と違う新しい価値を生徒に提供できたらと思っている。</p> <p>簡単ではあるが、説明は以上である。</p>
<p>会長</p>	<p>これからブラッシュアップしていくということなので、皆様から様々なご意見をいただきたい。</p> <p>それでは、推進ビジョン2030について議論していく。まず序章について、これまでの検討会議でも示された策定方針や骨子案に記載されていた内容が多くある。基本データが記載された章となるが、序章について、不明点や意見等はあるか。</p>

	<p>すぐにはないようであれば、私から質問させていただく。7ページのグラフで1983年あたりから大きく減っているが、2000年ごろからは、あまり変化がないように見える。この先の出生率や生徒数の状況などは、既にシミュレーションしているのか。</p>
事務局	<p>現時点の見通しは、令和12年あたりまでは微増する予想でその先から落ちていき、板橋区も少子化の影響を受けていくという読みではある。</p> <p>しかし、これまでも何回かそのような人口動態の増減をシミュレーションしているが上振れするなど、なかなか予想が立ちにくいものである。</p>
会長	<p>中学校数の22校という数も、これから再編していく計画はあるのか。</p>
事務局	<p>現時点で、減らしていくという考え方は、持っていない。</p>
会長	<p>生徒数は減っているが学校数は変わっていないということと、近年あまり生徒数が変わっていないということが見えやすくなってしまっている。</p> <p>このグラフから地域移行をしなくても大丈夫ではないかと思われぬかという心配がある。</p> <p>その他に皆様から、意見等はあるか。</p>
委員	<p>近年、学術研究領域では「引退」という言葉はあまり使わず、「キャリア移行」や「トランジション」という言葉を結構使うようになっている。</p> <p>引退という言葉を使うのであれば、厳密に規定したり、変えていったりするような形がいいと思う。引退という言葉は少しネガティブな印象があり、生涯スポーツ・生涯学習ということ考えたときには終わってしまうよりは、移行していくというイメージが伝わるような言葉選びがよろしいかと思う。</p>
会長	<p>9ページ、「生徒のニーズと選択の自由」では、どのように生徒ニーズを集めていく、もしくは評価していくというイメージを持っているか。</p>
事務局	<p>まずは持続可能な新しい仕組みを作る。その後、少子化が進む中で選択肢が無限に広がるのは難しいが、可能な限り選択肢が増えるような体制というものが、学校単位でない活動であればできると思う。</p> <p>ただ、地域移行しても、その年から今まで10あったクラブが、30とか50になるかというとなかなかそこは難しい。</p>
会長	<p>どうニーズを見極めていくのか、少数意見かもしれないし、一時的な盛り上がりかもしれないというのを精査して、取捨選択していただきたい。</p> <p>次に、第1章について、不明点や意見等はあるか。</p>
委員	<p>16ページ、「第一次目標達成に向けた取組時の課題」のパターン例で、○×が書いてあるが、Eが○でFが×なのがよくわからない。</p>
事務局	<p>これは第一次目標に対する寄与度を示している。第一次目標は土日に限った指導体制の話ということであって、そうすると土日に教員がいるFは×で、教員がいないEは○という見方になる。</p>
委員	<p>地域展開をした後の地域クラブと既存の野球のシニアクラブとの違いはあるのか。</p>

事務局	<p>違いはない。一般に地域で活動しているものを地域クラブと呼んでいる。少し混乱してしまうところがあったので、地域展開という言い方をしている。シニアを含め、地域クラブは学校教育ではないものになるため、その地域クラブの主催者が運営責任者になる。シニアであればその運営責任者であり、いたばし地域クラブは教育委員会が責任者になる。</p>
委員	<p>いたばし地域クラブで何か事故が起きたとき、責任は区か学校長か。</p>
事務局	<p>学校は関係なくなるため、少年野球が校庭開放で校庭を使っている、そこで事件・事故が起きた場合と同様に区が責任者になる。</p>
委員	<p>35 ページ、重点戦略3の取組3で既存の団体に、認証制度ができたときには改めて区として認証を取ることを促していくのか。</p>
事務局	<p>認証制度は研究がいる仕組みではあると思っている。決して行政のお墨付きというものではない。まず地域展開をしようとしたとき、地域にどのような活動場所があるか生徒がわからないのでデジタルガイドブックをつくりたい。</p> <p>しかし、それを作成した場合にその団体がどのような団体かわからないと選びにくいから、運営や指導の部分の認証基準みたいなものを作り、認証し、生徒に選んでもらうのが一つである。もう一つはガイドブックを作っても、もうすでに既存の地域クラブはあるわけなので、わざわざ行政が後から作った認証制度に手を上げる理由もないため、認証されると例えば良いことの一つに、中学生を受け入れてくれたら校庭を優先的に開放しますよというようなことをすると既存のクラブも入ってきてくれるのではないかと思っている。そうすると子どもたちは選びやすくなるし、場所の問題も解決される。</p> <p>また、この認証制度という仕組みの中で、様々な地域のクラブの方にお願ひできることが増える。民間クラブの運営に対して苦情等が来た時、我々は権限がなく指導方針を指示する権限もないことから、不適切な指導等が起きたとしても、直接入っていけない部分があるので、それがこの認証制度の中であれば、認証を取り消すとか、認証を与えるとかというようなやりとりができ、いろいろなことを勘案して、仕組みとして立ち上げたほうがいいだろうとは思っている。</p> <p>ただ、非常に研究がいる分野なので、今後研究していきたい。</p>
会長	<p>10、11 ページの「活動の過熱化」という問題を部活動の問題として示しているが、地域移行されたからといって過熱化がなくなるというものではないと思う。むしろ学校教育の一環という縛りが外れることによって、うちのクラブはこういうスタイルだからという形で、もっと過熱化するクラブが出てきたりすることが懸念される。</p> <p>また、17 ページの推進方針で、学校教育の一環として部活動が行われているとあるが、地域クラブ活動に関して、例えば社会教育の一環として行うとか、そういう何かこう教育の一環としてやるみたいな方針を検討して</p>

	<p>みてはどうか。それが先ほどの認証基準にも関わってきて、社会教育の一環としてやっているかどうかというのを、その認証の一次判断材料にする。教育ではなくなるところに少し懸念を持っており、その部分を、板橋区はどうしていくのかと思った。</p>
事務局	<p>認証基準については、非常に研究がいると考えている。貴重なご意見として研究の一つにさせていただく。認証基準を定めるとそこに対して、違ったような疑いがあり、対応する際に、抽象的な基準だと非常に難しいことが起きる。例えば、教育的という基準だと運用が難しく、何をもって教育的なのかという定義も必要になるし、一つ一つの基準づくりは難しいと思っている。そのような部分を研究し、運用可能な制度をつくるには、1年では難しいと思っている。</p>
会長	<p>第1章について、他に意見等はあるか。</p>
委員	<p>例えば軟式野球のクラブは区内で2つ、地域で活動している民間クラブがすごく少ないと思う。そういうところに受け入れをお願いするとなると、多くの子どもたちが溢れてしまうと思うが、他にもクラブを作るのか。</p>
事務局	<p>今地域で活動しているクラブはそのまま尊重するが、子どもたちがそこになだれ込むと混乱させてしまう。一方的に部活動だけを廃止してしまうと、溢れた生徒が行き場を失うが、例えば野球部を地域移行するとなると、生徒の活動機会が保障されていないといけないので、500人の野球部員がいるとすると500人が入れるような状態をつくり出すということになる。一方的に民間チームだけを当てにして、学校の野球部を廃止することはしない。そのようなことを宣言しているのが先ほどの推進方針の1番でもあり、需要と供給をマッチさせるのはとても難しいが丁寧にやっていきたい。</p>
委員	<p>近い内容かもしれないが、野球では補欠の問題が難しいと思っている。例えば、クラブの選手が30人とか50人とかになれば、補欠になる人が出てくる。ただ、そうしないように人数が少ないクラブをつくるとなると、例えば選手が10人ぐらいのチームがあったとして、月謝が1万円とすると、1ヶ月で10万円しか団体に入らない。それを仕事としてやる人はいないので、そのあたりに区からのお金が投入される見通しがあるのかを聞きたい。</p>
事務局	<p>現時点で民間クラブに交付金を提供するというイメージは持っていない。民間の方をお願いする中でこのような課題を解決しようとする、お願いベースとなるため非常に困難を極める。課題を解決する術としては、やはり直営のいたばし地域クラブでやれるのがいいと思う。自分たちで何とかできるいたばし地域クラブを具現化して、広めていきたいと思うが、同時に民間の方々もこの33ページの指針の尊重を求めたりして、もし賛同いただければ、そういう形で一緒になって運営してもらえればと思う。そ</p>



	<p>れとはまた違う考え方はそれで尊重し、こういうことが積み上がって5年、10年、30年と、それが一つの文化になっていって、昔は学校、今は生涯スポーツの街みたいになっていくというのは、非常に時間を要し、根気よく進めていく必要があると思っている。</p>
会長	<p>第1章では推進方針が変わったこと、地域展開という言葉が新たに使用されたことについて、ご意見等があればと思う。</p> <p>特にないようなので、次に第2章について、不明点や意見等はあるか。</p>
委員	<p>費用負担について、上限を設定する予定はあるか。</p>
事務局	<p>今後、どのように皆で負担する仕組みがいいのかは、考えていく必要がある部分である。ただ一つの答えではないが、今、いたばし地域クラブが月2,000円の会費を徴収している。これはいたばし地域クラブのコストを賄うには足りない金額設定ではあると同時に、全国的に見ると、板橋区は中ぐらいか、少し上ぐらいの値段である。やはりまだ無料でモデル事業をやっていて、各自治体の手探り状態である。いたばし地域クラブでは、月2000円を短期的に大きく超えてくるのは難しいだろうとっており、少なくともここまでの額でしばらくいきたいと調整している。</p> <p>ただ、先行する自治体は直営のようにやっても、一般社団法人や一般財団法人にして、企業献金とか、第3のお金が入ってくるような仕組みを活用している。行政が直接やるとなかなかそういう形ではできないが、将来的には一般社団法人化することは、他の自治体の事例を参考にしながら選択肢の一つになり得ると思っている。</p>
委員	<p>既存のスポーツ団体が設定している金額の相場などは見ているか。</p>
事務局	<p>見ている。ただ、例えば野球の板橋シニアは高いといえば高いが、指導者が多分謝礼を受けていたとしても、それで食べていけるわけではないはずである。やはり万単位になると思う。</p>
会長	<p>実施計画 2025 について、不明点や意見等はあるか。</p>
委員	<p>いたばし地域クラブは、今後また他の種目を増やすのか。それとも今あるクラブを拡充するのか。どちらの方向で考えているのか</p>
事務局	<p>30 ページをご覧くださいとその両方を行うとなっている。予算見合いになるが、このいたばし地域クラブは拡大して、受け皿の一つにしようという考え方である。</p>
会長	<p>今回は、e スポーツや女子サッカーという少し話題になりそうな種目を3つ展開しているが、この先に増やすものはまたニーズを開拓するような種目にするのか、それとも人数的に掘り起こしていったときに、先ほどの野球などを受けとめるようなクラブを増やしていくのか、次のイメージはあるのか。</p>
事務局	<p>新しい種目を増やすことについては否定しないが、第一次目標を掲げた以上、まずはここを最優先で取り組んでいくことになる。教員に頼らない体制を構築するために、新しい種目をひたすら増やしていっても、第一次</p>

	<p>目標には直接的には寄与しないため、まずはいたばし地域クラブの種目の展開については、現行の学校部活動のニーズを地域クラブで、どうやって受けとめるかということになる。</p> <p>モデル事業では、それぞれの種目に定員を設け、結果としては抽選にならなかったが、もし超えていたら抽選になった。今後も少しずつ置き換えをしていきたいが、単年度では、確かに多くの生徒を受け入れられるものは費用次第となるが、そういう形をとらざるをえない場合もあるかと思っている。</p>
委員	<p>来年度に新しい子どもたちが入ってきたら、今参加している子どもたちも合わせて抽選になるのか、既に入っている子は優先になるのか。</p>
事務局	<p>モデル事業で実証実験をする際に、可能な限り2年目も受け入れましようと言っている。既に入っている子が、次年度に入れなくなってしまうと連続性の問題が起きるため、女子サッカーやeスポーツでは学年ごとに定員を設けて、その枠の中で募集かけている。今後も、そういう形でやっていきたいと思っている。</p>
委員	<p>一年生から入ってないと、後から入るのは難しいのか。</p>
事務局	<p>そういう意味でいうとそうなのかもしれない。選択肢の自由度を掲げておきながら入れないという状況はつくりたくないの、そこは少しくまくりたいと思っている。新しい価値観を国も示している中で、可能な限り実現したいので、いたばし地域クラブもまず会員になり、個別クラブに申し込むという形をとっており、二つ目、三つ目の種目を子どもたちが選べるような形でやりたい。そうすると月曜日はスポーツ系、火曜日は文化系みたいな形で、可能な限りいろいろな経験ができる仕組みができたかと考えている。</p>
委員	<p>そうすると、女子サッカークラブをやっているが、eスポーツクラブもやりたいということもできるのか。</p>
事務局	<p>それを可能な限り受けられる体制で構築しないといけないと思っている。</p>
委員	<p>今、試験的にやっている3つのクラブの活動内容を中学生にお知らせすることは、何かしているのか。</p>
事務局	<p>教育の板橋や教育チャンネル等で告知している。</p>
委員	<p>紙ベースでポスターみたいなものがあるといいかもしれない。</p>
事務局	<p>今、学校に紙ベースの配布が制限されるような流れがあるが、周知方法については検討していく。</p> <p>それから、いたばし地域クラブの話があったので最近の動きを紹介すると、女子サッカークラブがこの週末に大会に参加した。勝ちを目的にしない、楽しもうという大会が幕張であったので参加してきた。それまでは、練習への参加率が少し下がっていたが、大会参加が決まってからは参加率が上がったような流れもあった。大会参加は子どもたちのモチベーション</p>

	に大きな影響を与えるということを再確認した。
委員	ちなみにその大会では、全員が出場できたのか。
事務局	8人制サッカーでの大会で、交代しながら全員が出場した。
委員	地域クラブについては、子どもたちのニーズに沿った様々な種目を設定してもらえたらいいかなと思う。学校現場としては、地域移行について一番スポットが当たると思う。どういう形で地域移行に向かっていくのかとかいうのを、教職員・保護者を含めて、また、入学してくる小学生も含めての周知をしていかないと、話し合っている我々は何となく地域移行や地域クラブについてわかると思うが、わからない方もいるので今どのように、板橋区では部活動改革が動いているのかということを知りたいと思う。教職員はまだ全然動いてないと言っている。教職員に今こういう状況で特に令和6、7年度に向けて、このような動きがあるということを知りたい。
事務局	その部分については、おっしゃる通りである。今年7月から8月にかけて、地域の方、保護者の方、スポーツ、文化芸術関係者の方と協議する場を持ち、今年度まだ何回かやることになっている。 35ページに示した重点戦略3の取組1の部活動地域移行シンポジウムの開催はそういうことをやりたくて設定をしている。校長先生が言っていたような話を、何年もかけて、保護者の方、スポーツ、文化芸術関係者の方、地域の方と対話できるチャンネルを持ちたいと思っている。 ただ、説明に終始すると、どうしてもご理解していただくのは難しいので、協議会を続けながら、だんだん皆さんが腑に落ちたときに、板橋区のこの事業が大きく前に進むと思っている。
事務局	今後、ブラッシュアップしながら、ぎりぎりのところまで洗練させていきたい。そのため、委員の皆さんから意見をいただきたいと思う。
委員	体育協会では、先日、理事会があったので、地域移行後の部活動について、骨子案を各理事の方に示した。その中で特に大きな意見等はなかったが、やはり体育協会としては、今後、どういう形で関わっていけるのかというようなことを、これからの検討課題としている。 また、人材バンク等の考え方から、各連盟・協会の資格を持っている者の調査を始めることや、体育協会としての指導員派遣等も含めて、検討していこうというところもある。 それから、9月にスポーツフェスティバル in 板橋というのを開催した。そこでアンケート調査を実施し、区民の様々なニーズを集計している途中である。次の機会にでも発表したいと思っている。
委員	計画は色々なことが網羅してあり、よくまとめられていいと思う。私が一番心配しているのは、中学校の先生、生徒、保護者、この皆さんのご理解を得られるかということだと思う。地域移行するにあたって、現場の先生の理解と協力がすごく必要で、我々地域のものはそれに対応していかな

	<p>くてはいけない。</p> <p>また、人材がすごく必要だなと思う。既存のクラブに受入れをお願いした場合に、一緒に活動するとかではなくジュニア部門みたいなことを付け加えてもらえるような工夫ができるところを募っていただけたらどうかと思う。ただ、周知をすると誤解が生じることがあるので、そこは難しいが周知をどんどんしてほしいと思う。</p>
委員	<p>私の子どもが通っている学校には特別支援学級があって、部活としてG組クラブという部活があるが、25ページの7番にあるように慎重に検討していく必要があると思う。通常学級と比べてやはりその学校のそのクラスでの先生に教えてもらう部活動だから、入れる子どもたちが多いのかなと思う。特別支援学級の子どもたちも安心して、その活動に参加できるものにしていただくため、通常学級の保護者とは別にお話を聞いていただく機会があれば参考になると思う。中学校PTA連合会への説明もやっていただきたいと思う。</p>
委員	<p>やはりお金の面というのがすごく難しいのかなと改めて思った。やはり受け入れる側がある程度食べていくということが、すごく大変で大切なことで、今の先生の負担を軽減するために、新たに地域の人たちの負担が大きくなってしまいうことは、責任だけが大きくなってしまふことになる。既存のクラブはかなりお金を取るクラブが多いと思うので、そうなる部活動との中間のクラブを作ったらどうかと思う。現状、地域の活動はキャパシティが満ちているところがほとんどだと思うので、中学生の受入れはほとんどできないと思う。部活動に入っていない子どもがどんどん入ってくると地域クラブをいかにたくさん作り、既存の部活動の数ぐらいの地域クラブ数が必要なのではないかなと思っている。</p> <p>この後の展開が、自分の中ではあんまり見えにくいという感想である。</p>
委員	<p>26ページの課題にもあるが、指導者の質と量というところがやはり部活動の地域移行に関しては一番課題だと思う。学校でも現在、部活動指導員や補助員を配置しているが、まだ人が少ないという現状がある。</p> <p>先ほど、体育協会も人を集めていただいているという話があった。協会や民間で良い指導者を集めることを学校だけではなく、行政のほうでもやっていただけると非常に助かる。</p> <p>また、部活動を子どもたちと一緒にやりたいという教員も必ずいて、兼職兼業制度を活用して部活動に携わる教員もいると思うので、そこも含め、部活動改革、まずは土日の移行ができればいいかなと思う。</p>
委員	<p>全体的には本当に良い方向で考えられていると思う。11ページの不適切な指導のところ、学校教育の中でも体罰や性犯罪から子どもたちをしっかりと守ることが大事だと思う。その責任は明確にしていく必要があると思う。</p>

委員	<p>事務局から内容については、ブラッシュアップしていくという話だったので、ぜひ最後までそのようにやってほしい。事前にアンケートをとり、子どもたちの生徒数の推移などのエビデンスがあった上での計画ではあるが、このビジョン自体、子どもたちがどう思うのかが少し気になっている。全部を中学生が読んで意見をするのは難しいとは思いますがやはり肉づけする際には、学校に部活動が残ろうが、地域に移行しようが、子どもたちは主人公として残っているので、その子どもたちの考え方を肉付けできるといいのではないかと思う。</p>
委員	<p>表現の部分で、私は11ページにある勝利至上主義的な思考やスポーツの問題・課題というところにどうアプローチしていくかをメインで研究している立場なので、こういう補足が入れられると良いのではないかとというような話をさせていただく。例えば3の勝利至上主義的な思考で「アフターマッチファンクション」という事例を出しているが、それ以上に、例えばそのスポーツで勝つことを目的とする勝利至上主義をどう変えていけるかを考えたい。逆の負けることには必ず意味がある、負けることに着目すれば「グッドルーザー」という言葉もあるし、スポーツでその勝ち負けがすべてと言われると、勝者は必ず1人になってしまい、それ以外は全員敗者になってしまう。</p> <p>しかし、その敗北から何を学ぶかという課題をどう見つけるかというところで、「グッドルーザー」という思考・考え方は、中学校の部活動では、特に大事なのではないかなと思う。</p>
事務局	<p>皆さんから本日いただいた意見をできるだけ反映していきたいと思う。表現についても適切かどうか、改めて判断していく。</p>
<b>閉会</b>	
会長	<p>骨子案からかなり具体的になってきて、重みが増してきたなという気がする。少し気になったところとしては、32から33ページにSDGsのコンセプトがある。このような形で大きな理念、大きなフレームワークを考えがちだとは思いますが、理念があっても本当に子どもたちに届くのかな、楽しいと思うのかなとか、保護者、子どもたちが理解し、ついてくるかどうかという考えを持ちながら進めていきたい。</p> <p>それでは以上で、第3回板橋区立中学校部活動地域移行検討会議を閉会する。</p>